稲沢市
一色城跡
発掘調査通信

令和２年１２月１８日発行

第７号 戦国時代の陶器が出土しました

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
株式会社 イビソク

12 月 11 日（金）に、20C 区の全景撮影を行いました。この調査区の北東隅では、一色城の北堀とみられる溝（035SD、後に西島村と片原一色村の境になる）の一部が確認されました。一方、調査区の南壁に沿って幅 1～2m の溝（090SD・056SD）も確認されました。この溝からは、焼けた建築部材や茶臼、漆椀、そして戦国時代の陶器が出土しました。出土した陶器は、天目茶碗や皿、すり鉢などの日常の食生活に使われる道具が大半です。陶器の年代は 16 世紀前半代のものが中心で、まさに一色城に橋本伊賀守が居て、城として機能していた時期のもの、といえます。

陶器が出土した溝と北堀の間では、戦国時代の遺構や遺物はなく、それよりも古い時代である古墳時代や奈良時代の土器が出土しています。このことから、ここに一色城の土塁があったと推定されます。土塁は廃城後に切り崩されて遺構としてはほとんど残っていませんが、堀と土塁に囲まれた「土の城」である一色城の姿が少しずつ明らかになってきたのです。

12 月中旬より、20A 区の発掘調査を開始します。

写真（下）溝 056SD の底近くで出土した天目茶碗（瀬戸・美濃窯産）と、木札状の木片の、出土状況

写真（上） 一色城跡 20C 区全景（東から）

※『一色城跡発掘調査通信』第１号～第６号と令和元年度の『一色城跡地元説明会資料』は、愛知県埋蔵文化財センターのホームページ（http://www.maibun.com）から PDF 版をダウンロードすることができます。